

県議選の結果について

— 現有8議席から5議席への後退。

結果を受け止め、公約実現と自力づくりに 全力をつくします

2019年10月29日

日本共産党宮城県委員会

一、10月27日投票でおこなわれた宮城県議選で日本共産党を支持していただいた有権者の皆さん、党の躍進のために昼夜を分かたず奮闘していただいた支持者、後援会員、党員のみなさんに心から御礼申し上げます。日本共産党は9議席をめぐらしてたたかいましたが、5議席へ後退する結果となりました。このことについて、率直におわび申し上げます。結果を受け止め、捲土重来を期す決意です。

一、10月12日から13日にかけて、台風19号が宮城県をふくめて全国各地で大きな被害を発生させました。県議選の最中にも豪雨災害が発生しました。日本共産党は、国会議員を先頭に地方議員が連携して災害調査やお見舞いをおこない、県議団をはじめ各地で議員(団)として緊急の申し入れをおこないました。救済制度を紹介するビラを発行するなど救援・救済に全力をつくしています。

一、県議選で日本共産党は青葉区で遠藤いく子団長の議席を新人の金田もとる氏に引き継ぎ、宮城野区・大内真理、若林区・福島かずえ両県議の再選、無競争で塩釜市の天下みゆき、石巻・牡鹿で三浦かずとし両県議が当選し、合計5議席を得ることができました。同時に、太白区・角野達也、泉区・中嶋れん、大崎市・内藤たかじの3人の現職が落選したことについて、心からおわび申し上げます。多賀城・七ヶ浜・藤原ますえい氏は数一票差まで迫りました。

一、今度の県議選では、暮らしの願い・希望ある未来をひらく力をさらに大きくと訴えてたたかいました。「命の水は売りに渡さない」、「県民総意で女川再稼働NO」、「消費税10%にNOの審判を下し、5%への減税」などを訴えてたたかいました。これには、地元マスコミも消費税引き上げ問題、女川2号機の再稼働、水道事業の運営民間委託など県民生活に直結する課題について論戦が交わされると報道しました(「河北」19日付など)。これと地域の具体的要求を重視してとりくみました。

党候補が勝利した選挙区も惜敗した選挙区も、ほとんどが数百票程度の僅差でした。この選挙結果をきちんと総括するとともに、市民と野党の共闘の時代にふさわしく、党の自力をつけ、捲土重来を期す決意です。

宣伝では、各種のビラ配布とともに、音の出る宣伝を重視してとりくみました。本番中も「街角トーク」や駅頭などでのスタンディングなど創意工夫してとりくみました。県としてSNSでの発信を強化し、街頭トークをはじめ候補者をはじめとする動画づくりにとりくみました。

他党では、自民党は28議席、立憲民主党は7議席、公明党は4議席、国民民主党と社民党は1議席であり、共産党県議団は第三党となっています。

一、この4年間で「市民と野党」の共闘が進化し、2回の参院選と仙台市長選で

3連勝し、県内各地で「市民連合」が結成されました。「市民連合@みやぎ」は党のすべての候補者をはじめ、3項目の政策協定(女川原発再稼働の是非を問う県民投票、拙速な水道民営化反対、安倍9条改憲に反対)を結んだ候補者26人を推薦しました。日本共産党がよびかけた連合政権への協議もはじまりました。党県委員会として、今後とも市民と野党の共闘にとりくむ決意です。

選挙戦では、保守・無党派の人々との共同が前回選挙とくらべてもさらに前進しました。多賀城市では、国民民主党や無所属の市議、元漁協の幹部の協力、大崎市では他党支持の後援会の幹部がわが党候補者を支持する、仙台では他党の元議員の支持や各種の勝手連や、塩釜では女性の会がつくられ、各種の応援する会など、今後にも生かす財産をつくりました。

一、組織戦では、党員の高齢化や「しんぶん赤旗」の日刊紙、日曜版の後退など自力の問題が大きな問題となっていました。全党員決起と担い手を広げる努力をおこない、選挙ハガキの協力者の組織などにもとりくみました。

7中総は「第28回党大会成功をめざす党勢拡大大運動」に取り組みことを呼びかけ、党員と読者拡大の努力もおこなってきましたが、率直にいうとこの点では十分成功するにいたらず、選挙戦でも他党派に競り負ける大きな要因となりました。第28回党大会成功めざす「大運動」の目標達成に全力を尽くす決意です。支持者のみなさんにもご尽力をおねがいいたします。

一、県議選と同時に女川、巨理、山元の町議選がおこなわれましたが、党公認・推薦の候補者4人は当選しました。今後の中選挙区では、丸森町議選(11月)、涌谷町議選(12月)、岩沼市議選(12月)、名取市議選(来年1月)、色麻町議選(1月)など連続します。これらの選挙で候補者の全員当選のために全力をつくします。

宮城県議選 開票結果 2019年10月27日 投開票

青葉(7-9) 31.44%
当 11,776 遊佐美由紀 立現(7)
当 10,479 遠藤伸幸 公明(2)
当 9,530 福井崇正 自新(初)
当 9,482 菅間進 無現(8)
当 7,899 吉川寛康 無現(4)
当 7,521 金田基 共新(初)
当 6,625 中沢幸男 自現(9)
6,236 大草芳江 無新
5,809 渡辺博史 立新
宮城野(4-5) 27.23%
当 12,220 石川光次郎 自現(5)
当 10,214 庄子賢一 公明(5)
当 7,534 大内真理 共現(2)
当 7,523 坂下康子 無現(8)
4,619 堀内周光 無元(1)
若林(3-4) 28.18%
当 10,273 渡辺勝幸 自現(2)
当 7,634 三浦奈名美 立新(初)
当 7,047 福島一恵 共現(2)
6,486 高橋克也 自新
太白(5-6) 30.36%
当 10,349 佐々木幸士 自現(4)
当 10,079 岸田清実 社現(6)
当 9,802 渡辺拓 自新(初)
当 9,581 横山昇 公明(2)
当 8,831 石田一也 無新(初)
当 8,549 角野達也 共現(1)
泉(5-6) 33.00%
当 14,174 小畑仁子 立新(初)
当 9,999 遠藤隼人 自現(2)
当 9,238 外崎浩子 自元(4)
当 8,934 伊藤和博 公明(4)
当 7,995 庄田圭佑 自現(2)
当 7,784 中嶋廉 共現(1)

石巻・牡鹿(5-5)
当 無投票 本木忠一 無現(5)
当 無投票 坂下賢 立現(6)
当 無投票 三浦一敏 共現(3)
当 無投票 佐々木喜蔵 自現(6)
当 無投票 斎藤正美 自現(7)
塩釜(2-2)
当 無投票 柏佑賢 無新(初)
当 無投票 天下みゆき 共現(3)
気仙沼・本吉(3-4) 42.91%
当 10,291 守屋守武 自現(2)
当 7,261 畠山和純 自現(7)
当 5,325 境恒春 立現(3)
5,012 斉藤巳寿也 無新
多賀城・七ヶ浜(2-3) 36.39%
当 10,968 深谷晃祐 自現(2)
当 6,761 仁田和広 自現(8)
当 6,327 藤原益栄 共新
東松島(1-1)
当 無投票 高橋宗也 自現(2)
宮城(1-3) 34.91%
当 6,503 桜井正人 無新(初)
4,684 安部孝 無元(5)
2,956 小淵洋一郎 無新
登米(2-3) 46.59%
当 11,569 伊藤吉浩 自新(初)
当 9,917 渡辺忠悦 無現(4)
9,608 佐々木奈津江 無新
栗原(2-3) 53.26%
当 11,824 瀬戸健治郎 無新(初)
当 9,894 熊谷義彦 無現(5)
9,079 長谷川敦 自現(3)

大崎(4-5) 38.24%
当 9,819 中島源陽 自現(5)
当 9,640 菊地恵一 自現(4)
当 8,067 佐藤仁一 立新(初)
当 7,463 佐々木賢司 自現(2)
当 6,232 内藤隆司 共現(1)
富谷・黒川(2-2)
当 無投票 藤倉知格 自現(8)
当 無投票 中山耕一 自現(5)
加美(1-1)
当 無投票 高橋啓 無現(2)
遠田(1-2) 39.59%
当 9,368 佐々木功悦 無現(2)
4,059 門田善則 無新
白石・刈田(2-2)
当 無投票 安藤俊威 自現(7)
当 無投票 横山隆光 自現(2)

名取(2-4) 33.92%
当 7,153 太田稔郎 立現(3)
当 6,737 村上久仁 自現(2)
5,637 荒川洋平 無新
1,760 大久保三代 無新
角田・伊具(1-1)
当 無投票 八島利美 自新(初)
岩沼(1-3) 38.81%
当 8,709 村上智行 自現(4)
3,358 加藤博子 無新
1,684 田村宏 無新
柴田(2-2)
当 無投票 高橋伸二 自現(4)
当 無投票 柊和也 国新(初)
巨理(1-3) 55.04%
当 10,751 渡辺重益 無新(初)
5,466 鈴木敦 無新
4,733 渡辺和喜 自現(8)

県議選 党派別当選者数

	計	新人	無投票	前回
共産	5	1	2	8
自民	28	4	9	27
立民	7	3	1	
国民	1	1	1	
公明	4	0	0	4
社民	1	0	0	1
無所属	13	5	3	13
(旧民主)				5
(旧維新)				1
(旧元気会)	—	—		0
合計	59	14	16	59

宮城県議選 現有8議席から5議席へ後退 4氏惜敗

「結果を受けとめ、公約実現と自力づくりに全力」

(日本共産党宮城県委員会の声明より)



28日当選の報告に立つ(左から)天下みゆき、福島かずえ、大内真理、金田基、三浦一敏の新県議



毎月25日
月1回発行
定価 100円
発行所
新みやぎ社
日本共産党
宮城県委員会
機関紙発行所
仙台市青葉区一番町
一丁目12-25
電話(022)267-1511
http://www.jpc-miyagi.net/

- 日本共産党各地区委員会
- 仙山西地区委員会 (022) 225-2920
 - 仙台東地区委員会 (022) 253-7471
 - 塩釜地区委員会 (022) 364-3222
 - 東部地区委員会 (0225) 22-6335
 - 仙南地区委員会 (0223) 22-4036
 - 北部地区委員会 (0229) 22-1252

宮城県議選が10月27日に投票開票され、日本共産党は9人が立候補し、5人が当選したものの、4人が惜敗。現有8議席から5議席に後退となりました。

選挙区別には、仙台市の青葉区・金田基、宮城県野区・大内真理、若林区・福島かずえの3氏が激戦を勝ち抜き、塩釜・天下みゆき、石巻市鹿野・三浦一敏の両氏が無投票

当選。太白区・角野達也、泉区・中嶋廉、大崎・内藤隆司、多賀城七ヶ浜・藤原益栄の4氏は、大接戦の末に惜敗しました。告示直前の台風19号による甚大な被害の影響もあり、投票率は過去最低の34・80%でした。

勝利した定数3の若林区では、共産党と立憲民主党候補が勝利し、自民候補を落として野党が2議席を占めました。当選

に至らなかった4選挙区のうち、仙台市の太白区、泉区では、当選ラインまでいずれも200票余の差という惜敗。新たな議席に挑戦した定数2の多賀城・七ヶ浜選挙区では、共同が広がるなかで434票差まで迫りました。

翌28日、当選した5氏は仙台市中心部でマイクを握り、「台風被害など災害が頻発する日本で女川原発再稼働や水道民営化はあり得ない」、「市民と野党の共闘の力で、絶対に許さないたたかいに全力を尽くします」と公約実現への決意を述べました。

日本共産党宮城県委員会は29日、「5議席へ後退する結果となりました。このことについて率直におわび申し上げます。結果を受け止め、捲土重来を期す決意です」とする声明(全文は裏面参照)を発表しました。



パトナッチを果たし握手する遠藤いく子団長と金田基県議



党仙台市議団が要望書

日本共産党仙台市議団は10月23日、郡和子市長に対して台風19号の被害に対する被災者支援、農業被害、浸水対策、避難所関係など、20項目の緊急要望を提出しました。

嵯峨ササ子市議団長が応じた高橋新悦副市長に要望書を手渡し、「党市議団が被災地を回り、直接聞いた要望をまとめたいものです。被災者の救援、被災地の復旧に生かしてほしい」と話しました。

要望は、被災者対応に

については、被災実態の把握を急ぐことや支援制度の情報提供の周知を徹底すること、罹災認定は被害の実態に合わせた判定をすることなど8項目で、浸水対策では、被災をくり返す地域は抜本的対策を求めています。

農業被害では、大豆や野菜をはじめとする農業被害への補償、稲わらや流木の撤去を急ぐことなど3項目。避難所関係では、環境改善と雨漏りなどの修繕・老朽化対策を要求しています。

「ストップ水道民営化」集会

宮城県の水道民営化方針を問う市民集会が10月5日、仙台市で開かれ、ジャーナリストの橋本淳司氏らが講演し、190人を超す市民が参加しました。

主催した「命の水を守る市民ネットワークみやぎ」の中嶋信共同代表は、公の仕事は非営利だから低コストでできるシステムがつくれられ、「民営化でコスト削減」はごまかしと指摘。「だまされてはいけない」と警鐘を鳴らしました。

橋本氏は、水道問題は将来のまちづくりの問題であり、住民参加と規模

縮小、流域ごとの省エネルギー化こそ必要だと指摘しました。

県民センターの小川静治氏は、県の実施策案がコスト削減のリスクを無視していることなどを解説しました。

シンポジウムでは、市民に訴えるために県議選で候補者アンケートに取り組みこと、県議会・仙台市議会で議論の紹介などがあり、会場からは「コスト論は隠れみので、水道を民間の投資対象にするのが本質。そこをわかってもらうことが大切だ」などの声が上がりました。

日韓友好

韓国併合の前年の1909年に統監府の初代統監として植民地支配をすすめた伊藤博文を射殺した韓国の義士アン・ジュングンと、当時憲兵で、獄中の安重根の看守だった千葉十七(とおしち)を法要する第39回追悼会が9月22日、宮城県栗原市の大林寺で営まれました。日韓から100人を超える市民の参加がありました。

安重根は、日本によつて外交権が奪われ軍隊も解散させられる植民地化に反対する義兵闘争の時期に、ハルビンで伊藤を暗殺し、韓国では義士として讃えられています。千葉は、安の正義感に共感して終生彼の供養を続けました。1981年に千葉の菩提寺の大林寺に「日韓両国の永遠の友好を祈念して」と顕彰碑を建立、毎年追悼会が続いています。

親善交流会では、駐仙

安重根らを追悼 栗原

大韓民国領事館の朴容民(パク・ヨンミン)総領事が、日韓の参加者への感謝と大林寺住職への敬意の祝辞を述べました。韓国からの11人の訪問団によるアリランの歌や「扇の舞」などが披露されました。

大林寺の齋藤泰彦住職があいさつし、地元の親族・大林寺護持会の役員、山形で国際関係を学ぶ学生、教授も参加しました。

県議会

宮城県議会の超党派の議員でつくる「脱原発をめざす宮城県議の会」(佐々木功悦会長・4会派19人)が10月3日、「女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会」座長の若林利男東北大学教授にあてて「県民の安全を守る立場から、水蒸気爆発問題に関する再検討をお願いする要望書」を提出しました。

超党派議員 女川原発で要望書

原発の炉心溶融による水蒸気爆発の実験について今年、東北電力等が提出したデータが実験者の論文ではなく海外の学位論文からの引用だったことが、日本共産党の中嶋廉県議の追及により判明しています。引用されたデータに重要な部分で食い違いがあることもわかりました。

要望書は「実際の原発の温度では水蒸気爆発は発生していない」という東北電力の主張を再検証すること、自発的な水蒸気爆発が起こるかどうかにについても検討するよう求めています。

要望書を受け取った県環境生活部の大森克之部長は「11日に次の会議があるので伝えます」と約束しました。

塩釜

塩釜市議会で9月18日に議会臨時会が開かれ、市議選で10期目の当選を果たした日本共産党の曾我ミヨ市議団長が副議長に選ばれました。

党市議団は、他党派と協議し公平な議会運営の一致点を確認。議会選挙にのぞみました。曾我市議は「議長を補佐し、開かれた議会、民主的な議会運営を目指して全力で取り組みます」と就任のあいさつをしました。

曾我議員が市議会副議長に

選で1議席増の4議席となり、第3会派となりました。

桜井充参院議員の離党表明

国民民主の桜井充参院議員(宮城選挙区)が離党表明した問題で、「市民と野党の共闘で政治を変える市民連合@みやぎ」は10月7日、県庁内で記者会見し、強く抗議する声明を発表しました。声明は、桜井氏が会見において「自民党入りも選択肢のひとつ」と可能性を排除しなかったとの報道に触れ、桜井氏の議席が2016年の参院選で「野党共闘」で獲得したものであり、野党共闘に希望と信頼を寄せ多くの県民の思いを踏みにじるものだと強く抗議しています。